



**問** 改正による在宅医療・介護の連携推進事業の課題認識を問う。

**答** 在宅医療・介護の連携推進は、地域包括ケアシステムの構築・深化を推進し、特に人口減少、超高齢化社会の中にあつては、受け皿となる人材や資源の開発にも苦慮していることから、高齢者の社会参加を進め、世代を超えた地域住民がともに支え合い・助け合う地域づくり、生活支援が鍵を握るのだろうと認識している。



大平 喜代江

### 本町における医療と介護の連携について

## 本町における医療と介護の連携について

### 介護の連携について

**問** 連携を進める上で、在宅医療資源の整備状況について問う。

**答** 国民健康保険診療所を在宅療養支援診療所として位置づけ、訪問看護ステーション・保険医療機関と連携した訪問診療体制を整えるなど、必要となる資源開発・環境整備を図っているところである。

**問** 近隣の市立病院の再編により生じる課題を問う。

**答** 隣接市立病院は、大きな資源の一つであると認識しているが、どのような状況になろうとも、与えられた条件、資源の中で体制を整えていかなければならないと考えている。



**問** 医療との連携強化における地域包括支援センターについての町の認識を問う。

**答** 地域包括支援センターは、介護予防ケアマネジメントを初めとする地域包括ケアシステムの中核的機関である。当該センターに在宅医療・介護連携支援機能を付加することなども検討する必要があるのではないかと考えている。

## 一般質問



岡本 ひとし

### 当初予算について

**問** 住民福祉の向上に向けて編成されたのか。

**答** 暮らしを継続させ、公共施設の再編整備とアクションプラン全体の加速を図り、土地利用需要の創出やエネルギー利用促進、地域経済の循環創出に重点化を図った。

**問** 財政を考えれば、市町村の合併も視野に入れるべきだと思われるが認識を問う。

**答** 財政問題だけで合併するのは疑義があると思う。十分な議論が必要だと思われる。

**問** 時代に見合った地域とは、どのように理解するのか。

**答** 経済・個人の成熟度など、個を大事にする時代に、地域がどうあるべきか総合的に考える必要がある。

### 教育について

**問** 新学校が開校して2年が経過しようとしているが、新学校の評価について問う。

**答** 一定規模の集団で学ぶ良さや、さまざまな教育活動を展開している。

**問** 「不登校」の現状認識を問う。

**答** 小学校は無し、中学校では昨年12人、本年は5人である。

**問** 「いじめ」の現状認識を問う。

**答** 昨年は、小学校41件、中学校11件で本年は小学校40件・中学校12件である。

**問** 「いじめ」の認知件数は氷山の一角であると思われるが対応策は。

**答** 生活指導担当者を中心に取り組んでおり、人権感覚の豊かな子どもを育てることを目標に指導

- 一、平成30年度当初予算について
- 二、能勢小・中学校の教育について
- 三、農業施策について

している。

**問** 担任の先生に任すのではなく、学校全体・地域も巻き込んだ教育が抜け落ちているのではないのか。

**答** 同じ考えであり、今後も学校全体・地域も巻き込んだ教育を進めていく。

### 農業施策について

**問** 農を生かす政策が必要だと思いが、認識を問う。

**答** 農を通じたコミュニティ文化が形成されており、地域力が減退すれば自然資本が失われることが懸念される。

**問** 能勢の農業に未来はあるのか問う。

**答** 土地利用を真剣に考えていくことで未来はあると考える。